



議会だより

しせん

第87号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3150

編集 議会広報編集委員会

印刷 株式会社 勉美新 印刷



第37回伊仙町ほーらい祭

(令和7年10月5日)



令和7年第3回定例会

議案審議結果	2 P
一般質問	3～8 P
現地調査	9 P
県外視察研修報告	10～11 P
議長の動静・編集後記	12 P

令和7年 第3回定例会

一般質問



杉山 肇 議員

役場新庁舎建設について

問 現在の状況と今後の見通しについて問う。

答 (町長) 県道から見る壁の汚れなどは、都会から帰ってきた方たちが残念に思うだろうというような指摘がある。また、伊仙町の名誉町民である叶 實統氏の記念碑が、隅っこに置いたままになっているが、私たちは、先人たちの頑張りを子孫に伝えていくという役目があると思うので、やはり新庁舎については、早期実現が町民にとって望んでいる声ではないかと認識し

ている。

(総務課長)

今後の見通しについては、11月中旬ごろまでに再積算及び修正の取りまとめを行い、工事費増が想定されるため、第4回定例会において補正予算を計上したいと考えている。補正予算が可決された際には速やかに工事発注を行い、12月末から令和8年1月末までを閲覧期間、その後開札を行い、契約議案の上程を行っていききたいと考えている。



現在の伊仙町役場新庁舎

工事発注形態については、現在のところ、過去の発注形態と同様に検討しているところであるが、特定建設業許可の資格を有することはもちろん、今後、建築工事一式、土木工事一式の県の格付等を参考にしながら検討していきたいと考えている。

要望 新庁舎は、行政機能の拠点にとどまらず、町のシンボルとして、利便性が高く、効率的で多くの町民が集える場所となることが期待されている。

町民の皆様の生活の質の向上と、今後の伊仙町の発展に貢献するため、新庁舎2期工事の早期完成を要望する。

住民サービスの向上について

問 DX推進の取組みとして、現在本町ではどのような取組みが行われているのか問う。

答 (町長) 私たちが直面している労働力不足を解消するためにも、またこれからの未

来に夢のあるような生活を築いていくためにも、このDXの活用については、避けては通れない問題だと考えている。



(未来創生課長)

伊仙町のDX推進の取組みとしては、公式LINEアカウントにて各種イベントや防災情報、生活に役立つ情報を発信している。機能を徐々にアップデートし、マップ上でのAEDの設置場所や、ゴミステーションの位置確認のできる機能も新たに追加している。ぜひ、町民の皆様に登録して活用していただければと考えている。

また、住民サービスの向上として、国の交付税を活用した公共施設利用ワンストップ化システム構築事業に取組んでおり、オンラインによる施設予約、キャッシュレス決済、

スマートロック等による入室管理、クラウドカメラによる利用状況把握などを一体的に導入する予定である。これらに関しては、住民の利便性向上及び業務の効率化を図ることを目的としている。

伊仙町公式LINE友だち募集中!!



▲登録はこちらから

ぜひ、伊仙町公式LINEの友だち登録をお願いします!

《追加方法》

下記のいずれかの方法で登録することができます。

- ①LINEでQRコードを読み取り登録
- ②LINEでID検索【@isen_city】して登録



清 平二 議員

介護保険制度について

問 施設への入所待機者について問う。また、仙寿の里における通所介護(デイサービス)は、行われているのか問う。

(地域福祉課長)

答 介護保険施設の待機者は現在、25名である。

仙寿の里においては、停止サービスについては、停止してから、まだ再開はしておらず、人口減少に伴い、働き手が減少し、各職場では有資格者の人員不足等が問題となっている。今後、募集をかけていき、人員の確保ができ次第、再開していく予定としている。

問

福祉用具、住宅改修の支払い状況について問う。

(地域福祉課長)

答 令和6年度の実績で、福祉用具については、

32件、94万5446円の支払いがあり、住宅改修費は26件、153万7943円の支払いがあった。福祉用具は介護保険一人10万円、住宅改修費は20万までの限度額となっている。自己負担額は1割となっており、全額支払いを終えた後に、申請書、領収書を提出していただき、自己負担額の1割を引いた残りを給付して返している形である。

要望 是非、今の制度を見直ししていただき、全額支払い後の返金ではなく、1割負担にして、在宅介護者の住みよいまちづくり、優しい伊仙町のまちづくりをしていただきたい。



ふるさと納税について

問 納税者へ対し、寄附金の活用状況や会計報告等はどのように行っているのか問う。

(未来創生課長)

答 個人版及び企業版について、現在、ホームページ及び広報誌にて、毎年公表をさせていただいているところである。

問 ふるさと納税を利用して予防医療、介護予防等に利用できないか問う。

(未来創生課長)

答 医療費等に関する歳入歳出については、特別会計となっているので、ふるさと納税の繰入は困難であると理解している。ただし、医療費削減につながる事業は可能であると認識していることから、ふるさと納税を活用した農福連携及び健康に関する事業として、今年度から農業、園芸による健康効果に関する研究事業に取り組んでいるところである。

近年の出生者について

問 出生率の向上対策に関し、どのように取り組んでいく考えがあるのか問う。

(子育て支援課長)

答 子育て中の親子の精神的・身体的負担を少しでも取り除くため、親子教室・子育て支援事業を継続し、交流や育児相談をする場を設け、子育ての孤立感、負担感の解消を図っているところである。また、令和6年度より増額、拡充した子育て支援金の贈呈式についても継続して実施し、ホームページやSNS等で発信している。

母子保健事業においては、新生児全戸訪問や産後ケア、各種検診及びベビーカー教室等を実施し、また、SNSを活用した相談しやすい体制を整え、不安感や困り感をなくすことで、第2子、第3子の出産につながるよう取り組んでいるところである。



子育て支援金贈呈式

問 保育料(3歳児未満)の完全無償化は、いつ頃から実施するのか問う。

(子育て支援課長)

答 財源の確保が厳しい現状であるが、今後も引き続き協議を重ねて、財源確保、早期実現に向けて取り組んでいきたいと考えている。



美島 盛秀 議員

伊田正則町長の町政全般について

問 大久保前町長が任期途中で辞職し、後継者として当選したが、選挙についてどのように認識し、政策実現ができるのか問う。

(町長)

答 前町長の辞職に伴う質問等については、私の私見を述べることは控える。

政策については、マニフェストに示したとおり、町民の皆さんが町当局に要望したことなど、一歩ずつ前進していけるような政策を進めていきたいと考えている。また、町民の方々が、町運営に参画できるような環境に持っていくためにはどのようなことを改善

していくべきか、課題の把握に努めて、子や孫に誇れるような伊仙町、将来、伊仙町に住んで良かったと思えるような伊仙町につくりあげていきたいと思っ

問 伊仙町建設業協会の実態と指名入札について問う。

(総務課長)

答 入札参加資格申請書を提出していただき、その登録された名簿の業者の中から、建設業種、施工能力、技術者の有無等を勘案して指名委員会にかけている。議員が指摘になられた業者との癒着関係については、今までもこれからもないものと認識している。

(町長)

入札制度についての理解がまだ不足しているので、時間をかけながらでも、どのような改善方法が望ましいのかということ、今

後、総務課長等と話をしながら学習を進めていきたい。

問 農業政策について。糖業振興会における使途不明金に関する裁判結果について時系列での説明を求めらる。

(経済課長)

答 2月28日時点で936万972円の請求を弁護士の方から発信したが、支払いがなく協議を続けてきた。協議を続けていく中で、先方の弁護士の方からお支払いの一部準備が出来たということで8月19日に475万4213円の入金があった次第である。

現在、残りの支払い義務がある費用としては、8月31日時点で残り488万5054円となっている。こちらは、毎日損害延滞金がついてくるので、日々金額については変わっていくものである。

問 堆肥センターにおける使途不明金について、現在の状況と解決ができるのか問う。

(経済課長)

答 平成21年1月19日付の念書により返済額が確定した金額309万6852円に対して、現在165万円の入金があり、残額が225万6852円となっている。当時の念書について調べたところ、土地等の確約がされているが、弁護士と協議を行う中で裁判等の措置をしていないため、土地を差し押さえるといったことが難しいという回答をいただいている。様々なハードルがあるが、都度、糖業振興会等で弁護士とどういった方法で回収しているのが望ましいか協議しているところである。

問 漁業集落の活動状況はどうなっているのか問う。

(経済課長)

答 今年度においては、魚のさばき方教室の実施や密漁監視、また、イカシバの投入等の計画を立てて活動している。

現在、漁業集落は前泊港を中心とした構成員9名で活動しており、事業費は140万円程となっている。



町内の小学4年生以下の40名が参加したチャレンジ教室「魚のさばき方教室」



福留 達也 議員

ハブやカミキリムシ、イノシシ等の買取り価格について

問 それぞれの買取り価格について問う。

(さゆらまち観光課長)

答 ハブの買取り価格については、県負担金15000円、町負担金15000円、合計30000円で買取りを行っている。持ち込まれる数は、大体1500匹から1700匹の間で推移している。



役場に持ち込まれたハブ

(経済課長)

カミキリムシの買取り価格については、1匹30円、イノシシの有害鳥獣の駆除に係る報償費としては、成獣1頭につき、2万2000円、幼獣1頭につき1万6000円の支出を行っている。イノシシについては、年間約200頭前後で推移しており、令和6年度の実績としては、成獣・幼獣合わせて180頭の駆除を行っている。

カミキリムシについては、平成30年に1匹当たり50円から30円の価格改定をした以降、約半数の2000匹前後の買取りを行っている。

問 価格の改定について問う。



(さゆらまち観光課長)

答 まず、ハブ対策担当課として、3町協議を行い、今後の方向性を進めていき、環境省、鹿児島県、徳之島自然保護協議会等とも協議の上、検討していく必要があると考えている。

(経済課長)

カミキリムシ等については、協議会等はないが、現在、本町においてもタンカンの浸食件数が増えてきていることもあるので、今後価格の改定については前向きに取り組んでいきたいと考えている。

議会の在り方について

問 堆肥センターペレット化事業、役場新庁舎2期工事の否決、このことをどう捉えているのか。そして否決に伴い伊仙町の損失、負担増はどれくらいになると試算されているのか問う。

(町長)

答 事業等を進めないことに対する不満や怒りを

町民の方から寄せられることがある。今停滞していることが、町民にとって良いことなのか、前に進めることが時期尚早なのか、これは私たちの議会において熟議し、また、地域の住民の声をきちんと耳を傾けて検討する必要があると捉えている。

(経済課長)

昨今の物価高、人件費の高騰等により、事業費増は確実に見込まれている。また、導入予定の機材等においても、現在メーカーより1割から2割程度の価格改定が示されている。農家の方の損失としても、安価な堆肥ペレットを使う機会を逸しており、このことは、化学肥料の削減による経費の抑制、また、地力増強による反収向上に伴う収益の向上の機会も逸したと考えている。

(総務課長)

役場新庁舎2期工事については、現在、再積算を

行っている段階であり、直近の入札時における積算基準の月である4月の単価を比較し、値上がりしている資材もあり、また、人件費の高騰もあり、全体工事費においても、約1割前後の工事費増が見込まれると認識している。

問 今後の派閥解消への取り組みを問う。

(町長)

答 派閥解消という言葉ではなく、町民が町政に対して、伊仙町の町運営に参画でき、それぞれの声が出せるような環境をつくりだしていくことで、町民総参加のまちづくりがあると思っている。まず、町民の声に耳を傾け、町民の声が反映するような町政を少しずつ前進させていきたいと考えている。



牧本 和英 議員

町長選挙を振り返り、伊田町長の心理について

問 町長は教職員時代、生徒に選挙権の授業等を行ったことがあるのか問う。

(町長)

答 生徒会の選挙の中で、民主的な学校運営が行われないと、一部の人が楽しい学校になってしまふ。そうではなく、全体的に楽しくなるような学校にするためにはどのような運営が必要なのかということを生徒会の中で、さまざまな課題を洗い出し、それに対する対策を考えながら運営することが大事なことではないかと話した記憶がある。



問 前町長の任期は令和7年10月であったが、任期満了を待たず5月に前倒し選挙が執行された。理由として「過熱選挙を防ぐため」「派閥解消」とのことであったが、このことをどのように受け止めているのか問う。

(町長)

答 前町長の決断に至る理由とその結果、また、その評価については、前町長の考えによって決断したものであり、そのことに対して、どう評価するかというコメントは差し控えたい。

前倒し選挙によって、4月に着任した教職員が投票できなかつたことについては、法律の中で、3カ月以上居住実態がないと選挙権が成立しないと定められている。

転勤時期が教員の場合は4月1日着任だが、その方の人権が否定されたかというところではなく、責任を持って投票するのに必要な猶予期間であるという考

えから国が定めたことであり、人権が無視されたというような解釈は私の中ではしにくい。

教職員住宅の入居状況について

問 入居者からの要望等の有無について、どのような要望があり、その対応について問う。

(教委総務課長)

答 よく挙げられるものとして、水回りの改修、防湿、樹木の伐採等がある。実際に異動されてきて入居を開始すると、修繕対応で業者を入れるということが非常に難しく、そういった点でうまく回っていない現状である。

また、町内にある教職員住宅39戸のうち全体の95%以上が築40年以上経過している。そして管理職住宅13棟のうち10棟が40年以上経過していることについては、指摘のとおり非常に古い住宅が多い状況となつて

いる。いずれにしても解体・建替えをしなければいけないという認識である。その中において令和6年度に馬根小の教職員住宅2棟を整備し令和7年度より入居を開始している。今後もリース事業等を活用しながら計画的に整備していかなければならないと感じている。

教育行政・教育環境について

問 教職員より学校施設や設備、教材について要望等はないのか問う。

(教委総務課長)

答 各学校より軽微な修繕等の報告を受け、町担当職員による現場確認、その後修繕を行っている。また、当初予算を編成する段階において、修繕箇所を取りまとめ教育委員会へ提出いただいている。

また、床がめくれてケガをするおそれがあるなど、学校から要望が来た際には

確認を行い、修繕を行うよう努めているが、昨年从今年にかけて猛暑が続いており、クーラーの不調が多く見受けられており、子どもたちの健康被害(熱中症対策)を考慮し空調設備の修繕を優先していることからその他の修繕が追いついていないのが現状である。



要望

学校側も言いにくい面が多々あると思われる。アレルギー等を抱える子どもがいる中、一日の大半を過ごす学校だからこそ生活環境の充実はとても重要だと思ふので、教育長をはじめ職員において現場を見ていただき、教職員で対応できない部分に関しては特に早急な対応を要望する。



井上 和代 議員

総合体育館の施設整備について

問 総合体育館の役割をどのように捉えているのか問う。また、総合体育館の空調設備の取組みについて問う。

(町長)

答 体育館の空調設備については、地球温暖化が進行している中で検討していかねければならない課題のひとつだと捉えている。これと同時に、台風等で避難所として停電時に空調設備が使えるような発電機または太陽光発電等も考えていく必要がある。温暖化現象が進む中での暑さ対策は、全てのスポーツ大会で、主催者側が注意しながら進めていかななくて

はならない要素であり、大会に参加する人たちが十分な力を発揮するために給水タイムや休憩タイムを入れるなど大会が安全に運営されるような環境整備は大切な取組みの一つであると考

(社会教育課長)

総合体育館は、スポーツ振興の拠点として練習や試合、多目的利用による交流拠点としても機能しており、災害時には避難所としても指定されている。運動施設だけではなく、地域の健康づくり、教育、交流、防災に貢献する多機能な公



伊仙町総合体育館

空調設備については、以前確認した際、今の体育館は、最近の体育館とは違い、窓が多いことから空調設備を導入しても効き目が少なく現実的ではないとのことであった。

子どもたちの遊び場について

問 親子での活動環境は十分に整備されているのか問う。また、温暖化の影響を考慮した環境整備はなされているのか問う。

(町長)

答 町民の要望等も参考にしながら、改善を図る必要性がある中で、予算面や様々な課題等も考慮しながら積極的に対応していければと考えている。

(社会教育課長)

義名山公園については、大型トランポリン、滑り台、ブランコなどの遊具が設置されている。また、今年度、屋根付きの休憩施設を

設置する予定となっており、現在、設計まで完了している状況である。



義名山公園

(さくらまち観光課長)

なくさみ館近隣に購入した土地に、地域住民、また、観光客が集えるような公園整備ということで、令和8年度奄振予算への申請をし、現在、計画を上げているところである。

要望

地球温暖化による影響に考慮した取り組みを今後、積極的に進めていただくよう要望する。

議会を傍聴してみませんか

議会の定例会は、年4回(通常3月、6月、9月、12月)開催され、必要に応じて臨時会が開催されます。

ネット配信も行っておりますが、ぜひ、生の議会を傍聴してみませんか。手続きは簡単で、議会の当日に傍聴席入口の受付表に、住所、氏名を記入していただくだけです。

詳しくは、議会事務局までお問合せください。



電話番号 86-3150 (直通)

令和7年第3回伊仙町議会定例会において 令和6年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出決算審査特別委員会について (一部抜粋※委員長報告につきましては、町ホームページ「各種委員会」をご確認ください。)

去る、令和7年9月9日に当特別委員会に付託されました令和6年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出決算は、9月12日から9月18日までの4日間、議長並びに議会選出監査委員を除く12名の委員で審査いたしました。

まず、9月12日に行われた現地調査について、委員並びに議長を含む11名で、令和6年度決算に係る主な箇所について現地調査を行い、町長をはじめ担当課長並びに担当職員から詳細な説明を受け現地調査を行いました。

調査場所は、喜念小学校新校舎、喜念浜海浜公園、ミンツキ遺跡、義名山公園総合グラウンド、鹿浦小学校の仮校舎として使用している旧農業高校までの全5か所の調査を行いましたので主な事項について報告と要望をいたします。

● 令和6年度において実施された喜念小学校屋外教育環境施設整備事業では、主にグラウンド、排水工事、外構工事が行われているが、事業費の都合により当初予定されていた、旧幼稚園建屋の解体工事の中止、教職員専用の駐車場を含む一部通路が未舗装の状態であった。旧幼稚園は昭和62年に完成され築38年が経過、外壁は欠損し、床は腐食した状態でも使用できる状態ではなく、台風等による二次被害も想定される危険な状態であると感じられたため、早急な対応を講じるとともに、子どもたちや教職員が安心・安全に過ごせる環境整備に取り組まれるよう要望した。



旧喜念幼稚園

● 喜念浜海浜公園について、平成16年度から5か年計画により遊歩道、展望デッキ、ロッジ、駐車場、公衆トイレ等の整備が行われた当公園は、太平洋を一望できる町内有数の景勝地であり、またウミガメの産卵地としても知られる希少な観光資源となっているが、整備から15年以上経過していることにより、遊歩道の亀裂や展望デッキの屋根部分の腐食、雑木により景観が損なわれている箇所等が見受けられるため、早急な対応が必要だと感じた。また、喜念浜は闘牛のトレーニング場所としても利用されていることから、ウミガメの産卵箇所の注意喚起徹底と海岸への入り口は観光客と闘牛との降り口を分けて整備するよう要望した。



喜念浜海浜公園展望デッキ

● 町内遺跡発掘調査等事業について、ミンツキ遺跡を視察した。本町の高等教育フィールドワーク推進事業を活用し熊本大学より教授と学生一行が研究の一環として発掘調査を行っておりました。1.5メートルほど発掘した先からは、昔の水田跡の土層やカムイヤキの破片も発見され、先人たちの生活様相や農業の痕跡など、今回の調査によって新たな発見もあったとのことであった。

また、9月6日には町内の子どもたちを対象に歴史や文化を学ぶ「発掘調査体験」も開催するなど、大学生と地域との交流を深める素晴らしい取り組みだと感じられましたので、今後も継続的に実施されるよう申し添えた。



ミンツキ遺跡

● 鹿浦小学校が仮校舎として使用している旧農業高校跡地を視察した。夏休み期間に引っ越し作業を行い2学期より仮校舎での学校生活が始まり、毎日往復1回のスクールバスでの登下校も問題なく、子どもたちも楽しく過ごしているとの説明であった。教職員の先生方から指摘もあったように、音楽室、特別支援教室の照明が少し暗いように感じられましたので、基準に適した照度を確保し、快適な学校生活を送られるよう対応を求めた。



鹿浦小学校仮校舎(旧農業高校)

<令和7年度 伊仙町議会県外視察研修を実施しました>

○10月14日（火）一般財団法人 南西地域産業活性化センター(NIAC)

研修目的：（一財）南西地域産業活性化センター(NIAC)の取組みについて

今回は、本町から職員が出向している那覇市所在の（一財）南西地域産業活性化センター(NIAC)を訪問し、同法人の取組み及び沖縄地域との連携に関する現状と今後の展望について視察研修を行いました。

まず、同センターの沿革と設立の経緯について説明を受け、次いで、奄美群島と沖縄地域を結ぶ産業ネットワークの構築に向けた具体的な事例が紹介されました。特に両地域に共通する自然環境や文化的背景を活かした観光交流、農産物のブランド化、物流の効率化を通じた経済連携の強化などが挙げられました。その中でも本町の取組みとして、令和6年度より開始されたサツマイモプロジェクト、また、令和7年度予算に計上された世界でもトップレベルの先端研究が行われている沖縄化学技術大学(略称：OIST)との連携による英検準2級合格者への交流事業について紹介され、当該交流事業は初めての取組みであり、今後非常に期待されている取組みの一つであるとのことでありました。

また、奄美群島産品の販路拡大に向けて、沖縄県内の商業施設や空港、観光拠点での販売促進イベントを展開していること、さらに地域間の人材交流や企業支援を通じて若年層の定着と新産業の創出を図っていることなど、持続的な地域発展に向けた多面的な取組みが進められているように感じられました。



NIAC ～研修会の様子～

○10月15日（水）座間味村(阿嘉島・座間味島)

研修目的：国立公園における園地施設整備の取組みについて

慶良間諸島国立公園を訪問し、主に、座間味村阿嘉島の「ニシバマテラス」及び座間味島の「神の浜テラス」における園地施設整備の状況について視察を行いました。両施設は、いずれも環境省直轄事業として整備がなされており、自然環境の保全と観光利用の調和を目的とした先進的な取組みとして注目されています。

慶良間諸島公園は、平成26年に国立公園として指定され、「ケラマブルー」と称される透明度抜群の海と世界屈指のサンゴ礁、多くの熱帯魚に彩られた美しい海中景観で知られ、1年を通じてダイビングやホエールウォッチングなど、国内はもとより近年では特にヨーロッパからの観光客が訪れる地域であり、那覇市から高速フェリーで50分という比較的近いことから、コロナ禍以降の年間入込客数は10万人を超える状況となっている。環境省では、こうした豊かな自然を将来にわたり保全するとともに、来訪者が安全かつ快適に利用できるよう景観に配慮した園地施設整備が行われていました。

自然環境の保全と地域観光振興を両立させるためには、施設の量的拡充ではなく、質の高い整備と管理が重要であることを再認識いたしました。また、島嶼地域における公共施設整備のあり方や環境配慮型観光（エコツーリズム）の推進に対し多くのことを学び得ることができました。



阿嘉島 ～ニシバマテラス～



座間味島 ～神の浜テラス～

○10月16日（木）琉球大学（中城村）
研修目的：陸上養殖の取組みについて

次に、沖縄県中城村に所在する国立琉球大学を訪問し、同大学が取り組むヤイトハタの陸上養殖プロジェクト（通称：琉球ミーバイプロジェクト）の研究・実践状況について視察を行いました。

沖縄県をはじめとする南西諸島周辺では、ヤイトハタ（地元名：ミーバイ）は、高級魚として知られ、同大学では、持続可能な陸上養殖技術の確立を目指すべく国の事業を活用しながら造事業10年のうち現在4年目となっており、日々研究と実証実験が進められているとのことでありました。視察では、まず、琉球大学理学部の竹村明洋教授（プロジェクトリーダー）より、同プロジェクトの概要説明を受けた後、実際に大学構内の養殖施設を見学いたしました。施設内では、円形の水槽や循環システム、ろ過装置などが整然と配置され、限られた敷地内で、効率的な飼育を実現するための工夫や環境配慮型の技術が随所に見られました。視察を通じ、陸上養殖がもたらす持続可能な水産業の可能性と、地域資源を活用した産業創出へ期待が強く感じられました。また、本町においても、豊かな海洋循環を背景とした水産振興を図る上で、このような先進的な陸上養殖技術の導入や連携は大いに参考となるものであるため、今後は、町としても、琉球大学など研究機関との連携を深めていくなど、地域資源を活かした新たな産業振興や担い手育成の可能性について検討を進め、さらなる発展に寄与できるよう努めてまいります。



琉球大学 ～竹村教授による研修会の様子～



陸上養殖施設見学

議会の動き

令和7年第3回伊仙町議会定例会における諸般の報告（議長の動静）

動静期間：令和7年第2回定例会（6月14日）以降の分

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

月	日	行事名	場所	月	日	行事名	場所
6月	22日	第73回伊仙町地域女性団体連絡協議会総会	総合体育館	8月	1日	令和7年第1回組合議会臨時会	鹿児島市
	29日	第38回トリアスロンIN徳之島大会	天城町		6日	鹿児島県町村議会議長会第2回理事会	鹿児島市
7月	4日	令和7年第1回徳之島地域公共交通活性化協議会	徳之島町	8月	7日	令和7年度市町村政研修会	鹿児島市
	10日	令和7年度奄美・やんばる広域圏交流推進協議会総会	奄美市		19日	正副議長研修会	鹿児島市
	17日	三力町議会議員連絡協議会第1回役員会	天城町		20日	子ども議会	議事堂
	30日	中央要望活動	東京都	9月	2日	議会全員協議会	委員会室

伊仙町議会議員選挙が行われます



投票日

令和8年1月25日(日)

【期日前投票期間】

令和8年1月21日(水)～

令和8年1月24日(土)

【期日前投票時間】

午前8時30分～

午後8時00分

【期日前投票場所】

伊仙町役場4階

議会委員会室



投票時間：午前7時～午後6時

編集後記

町民の皆様、毎日のお仕事お疲れ様でございます。今年も早いもので師走を迎え、議会だよりも年内最後の発行となりました。いつもご覧いただき、町政や議会活動に関心をお寄せいただいておりますことに感謝申し上げます。

今年は、大阪・関西万博が盛大に開催され、世界の人々が未来への希望を語り合う姿に、明るい時代への期待を感じる年となりました。町内でも、ほーらい祭りや町民体育祭などを通して、多くの笑顔と活気があふれる場面が見られ、地域のつながりの温かさを改めて感じました。ご参加・ご協力してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

また、本誌にも掲載のとおり、沖縄県への県外視察を実施し、(一財) 南西地域産業活性化センター(NIAC)での物流の効率化を通じた経済連携や、琉球大学が取り組む陸上養殖プロジェクト、そして、座間味村での観光施策などを学び、今後の伊仙町の発展に向けた貴重な機会となりました。

終わりに、町民の皆様におかれましては、今後とも伊仙町のさらなる発展のため、議会に対するご意見・ご要望等をお寄せいただけますようお願いするとともに、皆さまにとって新しい年が明るい一年となりますようお願い申し上げます。

文責 永田 誠

議会広報編集委員会

発行責任者 議長

委員長 前 徹志

副委員長 大河 善市

委員 井上 和代

委員 永田 誠

委員 清平 二



杉山 肇